

在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラム in 妹背牛の開催報告

～ いずれはみんなに訪れる人生の最期 どう迎えますか？ どう送りたいですか？ ～

- ・ 日 時 平成30年10月20日（土）13：30～16：00
- ・ 場 所 妹背牛町 わかち愛もせうしひろば（JA北いぶき妹背牛支所）
- ・ 参加者 97名（妹背牛町63名、深川市20名、秩父別町2名、北竜町7名、沼田町2名、その他3名、うち一般63名、支援関係者34名）
- ・ 目 的 北空知地域の住民の方に在宅医療と介護を考えてもらう地域啓発の場とする



- ・ 事前申込者は40名弱で、ちょっと心配しましたが、時間になると続々と入場、イスや資料を追加しました。
- ・ 1時間以上も前から来場された皆さんは、地域リハビリテーション活動支援事業で発案した介護予防体操「ライスパワー体操」のビデオを見ながら体操をしてくれました。
- ・ 司会進行は、この事業を担当する「多職種連携・地域啓発部会」の神薮部会長（北竜町地域包括支援センター主幹）です。



- ・ 開催地「妹背牛町」の廣瀬副町長から開会挨拶。廣瀬副町長からは、ご両親の最期を見守った時のエピソードを交えながら、在宅医療と介護について地域皆で考える大切さについてお話をいただきました。



・北空知地域医療介護連携支援センターの三ッ井事務局長から北空知の「高齢者人口の状況」や「医療・介護の状況」について説明があり、将来を考えると広域連携の深化が必要と判断し、北空知関係市町と関係機関・団体で「北空知地域医療介護確保推進協議会」が平成28年に設立され、「チーム北空知」を目指し様々な取組が行われていることが紹介されました。また、住民に考えてほしい事、やってほしい事のお話がありました。

北空知地域の在宅医療・介護の取組紹介

住み慣れたまちで 安心して暮らすために

医療や介護が必要になっても
住みなれた自宅や地域で
自分らしく暮らしたい。
～その想いをかなえるために支援を行います～

北空知地域医療介護連携支援センター



・深川地域訪問看護ステーションの原田所長から本問看護の取組として、人生の最期を自宅で迎えた3件の事例の紹介がありました。

・いずれも、本人と家族の願いに寄り添い、医師を始めとする支援スタッフが連携し、家族に見守られながら最期を過ごした例です。

・参加者アンケートでは、命の向き合い方に考えさせられました、訪問看護の素晴らしさを知ることができました、などの感想がありました。

在宅医療・介護を考える北空知地域
住民フォーラムIN妹背牛

自宅で安心して暮らすために～
訪問看護の取り組み

一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団
深川地域訪問看護ステーション
原田 順子

命の詩

- 命は神秘的で天命がある
- 今生きている時間 使い方はその人しだい
- 命は尊く限られたもの
- 自分から捨ててはいけない
他人から奪ってはいけないもの
- 命は生み育むもの 受け継いでいくもの
- 若く健康なときには永遠に続くと思いき
老いまたは病いの時は限りあるものとする
- 命 護り尊ぶ

深川地域訪問看護ステーション一同



- ・講演では、北星学園大学教授の杉岡先生から地域包括ケアシステムを構築するための事例として、新潟県長岡市の「在宅のお年寄りにも施設なみのサービス」を提供しようと取り組んでいる活動がビデオで紹介されました。施設の壁を取り外し、地域全体を施設とみなし、24時間365日で在宅生活を支えようというものです。
- ・また、道内の事例として、池田町の住民主体の取組を紹介。ふまねっとやサロンなどの介護予防活動の普及、見守りタクシーの取り組みなど、高齢者同士の助け合い活動が行われています。
- ・その中で、開催地、妹背牛町のNPO法人「わかち愛もせうし」の活動も全国的に先進的な取組をしているとの評価がありました。
- ・最後に、ともに暮らしともに支え合うこれからの地域づくりとして、医療介護連携の取り組み、支え合うコミュニティづくりが重要であるとのお話がありました。
- ・参加者アンケートには、「おたがいさまです」の気持ちが大事、他地域の事例が聞けて参考になりましたとの感想がありました。

在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムIN妹背牛
講演「地域包括ケアシステムの構築を目指して
～ともに暮らしともに支え合う地域づくり～」

2018年10月20日（土）13:30～15:30 於：妹背牛町 わかち愛もせうしひろば

北星学園大学 社会福祉学部 教授 杉岡 直人
http://www.sugioka-lab.com spvolvo@dosanko.org

3. 事例紹介 NHK番組（13分）

- ・在宅のお年寄りにも施設なみのサービスを（社会福祉法人長岡福祉協会：新潟県長岡市）
- ・福祉ネットワーク（NHK教育テレビ）（2011年2月16日放送）シリーズ 地域からの提言「検証・介護保険改正～新潟県長岡市～」
- ・24時間365日の安心在宅生活を支えるサービス（訪問介護、見守りIT24時間テレビ電話、配食サービス）
- ・施設の壁を取り外し地域全体を施設とみなす

池田町の住民主体の活動① ふまねっと

- 住民主体で、各地域に派遣・普及サポーターを育てる。
- ① 高齢者が高齢者の介護予防を主体的に支える
→ 指導者（ふまねっとサポーターズいけだ）が専門職でなく、主に一般高齢者
→ 介護予防プログラムを住民自身が全町に広める
- ② 呼びかけているのは、とにかく「ほめて励ます」こと。間違えても笑いで。
→ 助け合いに必要な文化を醸成
- ③ 開催場所は施設でも民家も可能。どこでもサロンに。町内会館中心に13カ所。
- ④ 同年代がさっそうとベストを着て活躍する
→ 参加者の目標が目前に→ 参加意欲が高まる

支えあうコミュニティ

② 社会参加・予防・生活支援

- 「就労」という分かち合いの経済とボランティアで多世代がつながるまちづくりへ
- ＝健康寿命延伸～元気高齢者（アクティブシニア）、高齢者就労、認知症予防、リハビリ
- 地域包括ケアの深化・地域共生社会の実現
- ＝地域の支え合い、ボランティア、買い物、サロン、安否確認、24時間365日の見守り体制





- 意見交換は、開催地の河野健康福祉課長がコーディネーターとなり、民生委員、老人クラブ、サロンなどで活動されている方から、外に出て活動することの大切さや、高齢者の本音をもう少し聞き出したいなどと、意見や感想を述べられました。
- 参加者アンケートには、今日は良いお話を聞いてよかった、今回のようなフォーラムを年1回は開いてほしい、高齢化がすすむ地域では、住民の力、つながりが大事だと再確認したなどの感想がありました。



杉岡先生のスライドから妹背牛の活動を紹介

地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる「わかち愛もせうし」の事例から...

- 平成25年度に策定した地域福祉実践計画（社協）の策定がきっかけ
 - 地域懇談会で...閉鎖になる農協の店舗を
 - 「子どもから高齢者まで異世代交流、集える・活動の場」に
 - 施設は農協所有、農協と町の契約で施設の維持・管理
 - 平成26年9月にNPO法人「わかち愛もせうし」設立
 - 住民交流スペース「わかち愛もせうしひろば」では...週1回地域食堂「わかち愛食堂」、週1回ふれあいサロン、月1回夕暮れサロン、認知症カフェ、ふまねつなど
- これらを新総合事業の通所B型（住民主体）で



わかち愛もせうし ポイント

- 人件費は当初無料
- 8：00から15：00まで食堂で働く女性スタッフ6人に時給200円を支払い
- ⇒男性もフロアに出て接客などで活動
- ハイヤー送迎（利用者は1回100円を支払う、NPOが負担・町が助成）
- ⇒移動手段の確保
- 社協から食堂に臨時職員としてまちかどアドバイザーを週3回配置
- ⇒行政＋社協＋NPOの連携

- 会場となった「わかち愛もせうしひろば」は、農協の旧店舗を改装、食堂テーブルやソファ、運動器具が備えられ、住民の休憩、集いの場となっています。
- 社会福祉協議会やNPO法人わかち愛もせうしでは、オレンジカフェ・縁（月1回）、ふれあいサロン・ほっと茶屋（毎週金曜日）、ふまねつとや百歳体操などの介護予防活動、わかち愛食堂（毎週月曜日）、わかち愛食堂・夕暮れサロン（居酒屋版、月1回）などを開催しており、その他にも様々な集いの場、居場所として利用されています。

- 在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムは、北空知1市4町を巡回開催しております。
- 来年は、北竜町で開催します。ぜひ参加ください。